

参加募集時に頂いたご意見

「原子力委員会政策評価部会 ご意見を聴く会」の参加募集時に頂いたご意見について、頂いた順に、個人が特定される情報を除き掲載しています。

No.	ご意見
1	<p>放射性廃棄物の処理・処分に係る政策評価部会を何回か傍聴させて頂いています。この部会では、高レベル放射性廃棄物処分が事業としてなぜ進まないのかを、国、事業者、研究機関等のPDCA活動ができてきているのかを評価すべきだと思います。少し残念なのは、各専門委員の議論が、高レベル放射性廃棄物処分の安全規制まで及んでおり、これは本来、原子力安全委員会等で議論すべき課題だと思います。また、これについては、原子力安全委員会等でもこれまで議論されています。高レベル放射性廃棄物処分大切なことは、放射能濃度は高いものの、ガラスで固定化して静的で安定した物質を、将来の人間も活動しない深い地層に処分することにより、人と廃棄物を安全に隔離できることにあります。このような技術は放射性廃棄物でなく、現在いろいろ言われているダイオキシンなどの有害物質（放射性廃棄物と違って減衰しませんが）にも活用できると思われ、処分場ができれば世界中の人達からその地域の名前を覚えてもらえるとともに、記録保存の観点もあり、半永久的にその地域の名前が残るというすばらしいことを、国民に丁寧に説明していくことが重要です。したがって、この部会も1回のご意見を聴く会で終わるのではなく、全国をすべて行脚するような計画を考えていただきたいよう再検討をお願いします。</p>
2	<p>「放射性廃棄物の処分問題」について、未だあまり一般的な世間の話題に上らないのは、マスコミへの情報提供が少ないからではないでしょうか？ 草の根的なシンポジウムや説明会の開催も大切と思いますが。</p>
3	<p>食料の自給率のみに話題が集中しているようだが同時にエネルギーも危機的状況なのだ、というアピールがマスコミに登場しない。土地が無い、食料が無い、資源が無い、以前ほど金もない・・・という日本の現実を考えれば「何とかなる」では済まされない。また、環境問題も自然エネルギーだけで生きていく、といった綺麗ごとだけでは済まされない。夏の最高気温・冬の寒波・・・の翌日に必ず報道される「過去最高の電力消費量記録」を考えると今後、多数派である日常の暮らしの省エネが進んでいくとは思えない。現実として思い切った節電政策を為すことが出来ないのであればエネルギーの確保はしておかなければならない。思いがけず皆が思い切った節電生活や行動を実践できるのであれば非常に結構なことである。「食料だけではありません、エネルギーにも自給率があるんです！」を強くアピールする必要があると思う</p>
4	<p>宮城県の皆さんこんにちは。再処理工場から、 キロの 市の です。「考えよう！ニッポンのエネルギーin ナントカ」を始めとして、原子力エネルギーを推薦するフォーラムがあちこちで行われていますね。地球温暖化対策としては二酸化炭素を出さないエネルギーが重要で、中でも原子力は効率が良くしかも安心で安全だと説明されています。その結果生じる高レベル放射性廃棄物の処分場の話はいかがでしたか。</p> <p>実はその廃棄物は三十年から五十年という約束で青森県で預かっているのです。期限が来たらちゃんと搬出するからと国は言うんですが、「ウチにどうぞ」と名乗りを上げる自治体が出てこないものでね。資源エネルギー庁が募集し歩いているというワケです。</p> <p>三百メートル地下に埋めるのがベストかどうかは異論もあるんですよ。現に今は建屋貯蔵と言って、頑丈な倉庫のような建物に半地下状態で保管しているんです。あまりにも高熱なので時間をかけて自然換気で冷やしているんです。</p> <p>安全だと言われてもなかなか信じてもらえないらしくて「おことわり条例」をつくる自治体が増えているのはご存知でしょう。青森県では条例を見送りました。「知事の同意がない限り、青森県を最終処分地にはしない」という大臣との確約書があるもんでね。約束は条例より重いからつくらないんですって。宮城県の皆さまはどうですか。</p> <p>みんなで使った原子力のゴミなのに「ウチには持ってこないで！」なんて、身勝手にも聞こえますがね。青森県がトップ切って預かったんですから、次は宮城県でどうですか。</p> <p>宮城県の向こう5年間の累積財源不足額が、最大で1344億円に上がることが分かったから言うんじゃないんです。国では安心で安全だって言うんだし、国策に協力するって誇らしいでしょう。オカネが付いてくるのが気に入らないという人もいるでしょうが、これはセットですから受け取ってください。</p>
5	<p>この問題は、国民的問題。広く色々な人の意見を聞いてみたいことから、参加を希望する。</p>

6	<p>エネルギー資源の乏しい我が国にとって、最近の国際的な原油高は燃料価格の上昇のみならず、包装材料費や輸送費の高騰を招き、最悪の場合、インフレーションによる経済活動の沈滞化、さらには経済恐慌への発展すら考えられる。</p> <p>長期的に見ても、人類の幸福のためには、経済成長は不可欠であり、そのためには、確実なエネルギー源の確保が国家的課題となる。</p> <p>しかしながら、このエネルギー大量消費社会は、一方で地球環境問題を拡大させることになり、国際的にもエネルギー源の脱炭素化社会を実現させる主要国としての我が国としては、この矛盾を解決する施策を確実に実現させる義務がある。</p> <p>そのための唯一の切り札は、原子力立国政策である。にも関わらず、国はその施策推進のカギとなる放射性廃棄物の最終処分に関して、国民の理解獲得活動に本気になっていないのではないのか。</p> <p>放射性廃棄物の管理は数千年から数千万年という長い道のりであり、現在の電気事業者が、どんなに地域社会に対して理解を求めようとしても、所詮その成否は明らかである。国の本気度をどのように示すべきか。処分場という負のイメージの施設だけを建設しようとするから、いくら地域振興策を抱き合わせても「負のイメージ」が強く残るのではないのか。</p> <p>そうすると、原子力発電所のように発電という「生産施設」とのコラボレーションを推進する必要があると思う。もちろん、原子力発電所の立地でさえ、容易でないことは十分に承知しているが、三方一両「得」の発想が必要。</p> <p>① 電気事業者は、原子力立地が進み、将来の電源確保のハードルを若干下げられる。</p> <p>② 立地地域は、生産施設を確保することにより、地元産業拠点を構築し雇用と税収確保、さらには国による確実な地域振興策の継続的投入が期待できる。</p> <p>③ 国は、原子力立国政策を推進し、エネルギーセキュリティ問題を少しでも軽くすることができると同時に、国際社会に対して「脱炭素化社会」の実現への確かな歩みを示せる。</p> <p>このような考え方を、これまで以上に打ち出し、今回の討論などを全国各地でもっと開催することが重要だと考える。みなさんのご活躍を心より祈念いたします。</p>
7	<p>高レベル放射性廃棄物処分場の立地問題は、実施主体の顔が見えないことと、立地することで地域の皆さんが国益を担うという誇りとそれ以外の地域の皆さんが国益を担って頂くという理解（応援）がないからであると思う。</p> <p>この誇りと理解（応援）のためには、双方向コミュニケーションによる地道な理解促進活動を全国的に進めていくしかなく、今後も各主体の継続的な取り組みを期待する。</p>
8	<p>放射性廃棄物の処理の必要性を公知しないで原子力発電を続けることは許されない。更に廃棄方法に選択肢があり、それぞれの比較を正しく(偏り無く)した上で決定する必要がある。無駄なコストを払われるのには耐えられないし、無駄に放射性廃棄物汚染されるのも許しがたい。</p> <p>正しい、合理的情報を国民に伝えれば、我々の多数は納得するはず。</p> <p>ゼロベースで議論しても、原子力発電は必要ではないのか。少なくとも、50%、50%で、最後は国民がどっちを取るかだけの話。</p> <p>もし情報操作して、原子力発電を進めたとしたら、将来の不利益の無限責任を、情報操作者は負わなければならない。</p> <p>是非、反対者からの質問に正しく回答してもらいたい。</p> <p>中立的な専門家の意見がどうしても聞きたいし、推進派、反対派の意見も同様に聞きたいので、是非合理的な議論をしてもらいたい。</p>
9	<p>原子力政策大綱に示されている「放射性廃棄物の処理・処分に係る施策」に関して、国をはじめとした関係機関による取り組み状況について、皆さんがどのように受け止められ理解されているのか、また、それらの取り組みは政策評価の視点からはどうなのか等々、関心があります。</p>
10	<p>誰でもどこでも自分の近くに放射性廃棄物を置きたくはありません。でも毎日着実に放射性廃棄物は増え続けています。ではどうすればいいのか。アイデアを広く聴きたいと思います。</p>
11	<p>情報公開の仕組みについて</p> <p>処理・処分施設の地元の方々に安心していただくには、徹底した情報公開が不可欠であると思います。例えば、以下のような方策は考えられないでしょうか。</p>

	<p>「地元自治体、住民代表及び専門家からなる情報公開組織を構築し、施設の立入調査の権限を付与する。」安心のためには信頼される情報発信源を設けることが大切と考えます。</p>
12	<p>原子力発電は運転中に二酸化炭素を出さない、また貴重な化石燃料の節約の観点から今後とも発電の分野において重要な役割を果たすことが期待される。</p> <p>一方で「トイレ無きマンション」にならぬよう、原子力発電に伴う廃棄物については、その管理や処分について将来を見据えた方向がきちんと示されることが必要不可欠である。</p> <p>放射性廃棄物は民間企業の管理限界を超えるような、長期間に亘って放射線を出し続けるという性質から、その管理や処分については、諸外国に見られるように、国の積極的な関与が望まれる。従って、この放射性廃棄物処分に関して、特に以下の点を国に期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃棄物処分場をできるだけ早期に決定する。 2) このための組織、やりかた、住民や国民に対する理解活動 <p>等々、現在うまく行っていない原因を良く分析して頂き、国が先頭に立って対策を実行して頂きたい。</p>
13	<p>処分地選定は国民の合意を取り付ける事、取り分け、住民に対しての分かり易い説明が最重要と考える。</p>
14	<p>原子力政策大綱に示されている方向に沿った放射性廃棄物の処理・処分が実現するよう、国の責任ある施策の実行を望む。</p>
15	<p>低レベル・高レベル放射性廃棄物を、財政に困窮した自治体が請け負うのを待つ現状に強い違和感を覚えます。対策として、9電力各社が出した放射性廃棄物をきちんと回収することを義務付ける。そして地下に埋設せず、安全管理上、地上管理にすべき。できればガラス張りにしてみんなが見えるようにする。各電力ビルの内部で300年管理する。安全というならやれるはず。国外処分はもつてのほか。そうなればこれ以上核廃棄物を作ることが無理になり、自然エネルギーへシフトしていけるはずと思うが？</p>
16	<p>放射性廃棄物の処理、特に処分については、まだまだ全国レベルでの認識に至っておらず、一部の原子力施設立地地域や、財政難に苦しむ自治体で「立ち上がっては消える」議論の域を脱していない。国も前面に立って取り組むとしているが、なかなか腰が重く、動きが鈍いように思われる。このような状況を進展させるためには、原子力委員会の指導力が必要と考えることから、今後の原子力委員会による更なる活動に期待する。</p>
17	<p>特定放射性廃棄物の最終処分の必要性について、まだまだ国民が自分の問題として危機感を持っていないのではないかと感じる。平成40年代後半の処分開始に向け、立地地域の振興策等も具体的に示しながら、国民の合意形成を図っていく必要がある。</p>
18	<p>「放射性廃棄物の処理・処分」問題は、良く理解できていないので、会場での意見を参考にして自分の考え方を整理したい。</p>
19	<p>私たちの生活は電気供給を前提に成り立っている。もはや、電気なしの生活は考えられない。その中で、原子力発電は電気供給の全体の30%以上を占めていることから、もはや原子力発電なしで、私たちが現在享受している豊かな生活を維持することは考えられない。</p> <p>しかも、最近「原油・石炭の高騰」や「地球温暖化防止への取り組みがますます必要になってきていること」から、原油の価格に直接連動せず、発電時にCO2を排出しない原子力発電の重要性が以前にも大きく増してきている。</p> <p>どんな発電方法でもメリットはあるが、課題が無いものはない。原子力発電ではどうしても放射性廃棄物が発生してしまうので、放射性廃棄物の処理・処分が原子力発電の課題となるが、その課題だけで価格安定性や地球温暖化への貢献度合いが高いなどのメリットが多い原子力発電を活用しないというのは、あまりにも惜しい。</p> <p>我々の英知を結集し、放射性廃棄物の処理・処分という課題を克服し、原子力発電という”道具”をうまく使う方法を考えるべきだと思う。</p> <p>ただ、心配なのは、「NIMBY」（必要なことはわかるが、自分の裏庭ではやめて欲しい）という考え方が蔓延していることだ。エネルギー教育の更なる充実が必要なことは言うまでもないが、国のリーダーシップを大いに期待したい。放射性廃棄物の処理・処分に関する国民への理解活動に</p>

	<p>については、中長期的な課題として国が主体的に取り組む必要があり、放射性廃棄物の処理・処分の候補地になった地方自治体への支援については、国がより踏み込んで関わっていく必要があると考える。</p>
20	<p>小中学生は、地球温暖化に強い関心を示しており、原子力発電が必要不可欠と理解している。しかし、高レベル放射性廃棄物に関しては「次世代へのツケ」というようなイメージで捉えている。放射性廃棄物の処理・処分の方法の安全性、発生量等について、教育の場等を通じて理解させる必要があると思う。</p>
21	<p>国内で原子力発電所を運転し、電気を使っているのだから、国内で処理・処分をするのは当然のことと思う。処分場の選定にあたり、手をあげる自治体は反対ばかりせずに、もっと勉強すべき。最近の四国であったドタバタは、県知事も含め、手続の流れをきちんと理解していれば、もっと他に対応方法はあったはず。とにかく勉強して、反対するのはそれからにして欲しい。</p>
22	<p>このような会を開催することは、放射性廃棄物の処理・処分の施策を様々に御理解していただくために、とても有意義なことであると思います。</p>
23	<p>放射性廃棄物の処分については、早急に解決すべき課題の一つと考えます。この会を通じた専門家以外の説明や意見が処分の課題解決のため役立つものと考えます。</p>
24	<p>原子力発電は、地球温暖化の観点からも必要なものと思う。原子力発電の結果発生する放射性廃棄物については、電気の恩恵を受けた世代で、その処理・処分について解決させるべきである。その為にも、国民一般の理解が不可欠で、国は、今以上に前面に出て理解活動に努めるとともに、次世代の理解のためにも、教育などにも力を入れて欲しい。</p>
25	<p>宮城県内に放射性廃棄物の処理場建設</p>
26	<p>学校で事実について教えるべきだと考えます。判断する材料が推進側や反対側のどちらか一方の情報によるものだけでは、公正な判断ができないと考えます。</p>
27	<p>2004年六ヶ所村に原発で使った燃料からプルトニウムを取り出す再処理工場が完成したと言うことを聞いておりますが、その後六ヶ所村の漁村の方々、農業を営むの方々にとって何の影響もなく生活していらっしゃるのでしょうか。</p>
28	<p>地層処分については、資源エネルギー庁主催で、各県での説明会を実施しています。私も福島の説明会に参加しました。しかし、各県の県庁所在地のみ、しかも1回、せまい会場で。これで、住民に説明したということになるのでしょうか？ 単に、一応実施したという実績づくりにしか思えません。</p> <p>国として、何のためにやるのか、何を国民に理解してもらいたいのか、まったく伝わりません。とりあえず説明会を開いたので良い、という考えを早急に捨てるべきです。</p> <p>公募も継続するということですが、火山地帯や、過去に大きな地震があったところなど、あきらかに候補地になりえない市町村もあるはずです。まずは、調査対象となりえる市町村を示し、そのすべての市町村で説明会を実施し、理解を求めるべきではないでしょうか？</p> <p>繰り返しになりますが、各県1回の説明会は、単なる実績づくりであり、無意味。金と時間の無駄遣いです。</p>
29	<p>放射性廃棄物そのものの存在は具体的にどのようなものかわかりません。又、それらの処理・処分が、いつ、どこで、どのような形で成されるのか等もわかりません。事故が発生したり、海洋環境が汚染されたりすれば、多大な被害が出るであろうことは想像しますが、すべて人間社会にマイナスイメージとして実現するだけであると考えますので、充分慎重な対応が必要だと思います。</p>
30	<p>廃棄物は発生自体を減らすのが重要であると考えます。どこも引き受けてがなく、あらゆる廃棄物の中でもっとも扱いがやっかいである放射性廃棄物は、今後できるだけ出さないようにすべきです。また、具体的な処理方法については、専門家や役所が選んだ一部の人が決めるのではなく、選択肢を示してメリット、デメリットを明らかにした上で、国民的な議論を経て決めるべきで、政策決定のプロセスをオープンにするべきだと思います。</p>
31	<p>放射性廃棄物の処分は、国家としての課題ですので、全国で国民が自分の事として議論をして考える必要があると思います。</p>
32	<p>「ゆりかごから墓場まで」とは、どこかの国の福祉政策のスローガンだったと思いますが、同じ</p>

	<p>ような視点に立って放射性廃棄物の処理等にかかわっていくことが大切だと思います。日常生活でエネルギー等の恩恵をうけて受けている以上全てのものが当事者である、という意識が芽生えればと思います。</p>
33	<ul style="list-style-type: none"> ● 人知を超えた時間を要する本施策に誰が責任を取れる？・・・「高レベル」に於いて、本来必要とする数万年（あるいはそれ以上）もの「管理」をほぼ放棄することを前提に進められる本施策は、人倫的にも堪えられない誤ったもの。適切に処理・処分することなど見当たらない放射性物質は発生させないことがもっとも賢明。今後、原子力からの撤退も視野に、これまで発生させた廃棄物をどうするかを議論すべき。 ● 「地層処分」について・・・2007年中越沖地震における柏崎刈羽原発の惨状を見るまでもなく、原子力施設の地震への懸念が拡がった。世界有数の地震大国（1割が日本）にあって、どこに超長期的に安定した適地があるのか。 ● 処分場立地をめぐる問題・・・NUMOによる公募方式自体、適地か否かは全く度外視した愚策。財政疲弊した過疎地にカネ目当てに手を上げさせるやり方は、公正性、公平性に著しく問題あり。「発生者責任の原則」（大綱）ならば、受益者負担の原則に従って、まずは各電力会社本社敷地内で「管理」すべき。
34	<p>処理・処分については、行きつく所、どこに施設を作るかが問題になってくるのだと思います。一地域に負担がかからない様な施策が必要だと思います。</p>
35	<p>まずは安全な処分場を決める事が必要だと思います。</p>
36	<p>私が知る発電所においては、近郊の地域住民の方々には相応の理解を頂いている様に感じておりますが、都市部他の地域の人々への理解無しに推進していくのは難しいと思われまます。今後、（地域ボランティア清掃等）どのようにして理解を求めるべきかお聞かせ願いたく考えております。</p>
37	<p>処分地は必ず必要。早急に決めることが大切だと思います。</p>
38	<p>「放射性廃棄物」に関わり数年経過しておりますが、思うところに、マスコミ（テレビ、新聞他）全般に言えることですが、国民に対しその安全性、必要性が認識できる媒体として、まだまだ改善できる余地が多分にあると考えております。今後、廃棄物の増大に伴い、世論の後押しはかせないものです。上記につき、どのような思索があるかお聞かせください。</p>
39	<p>私自身、原子力発電所に携わり間もないものですが、それ以前においては、「放射性廃棄物」ということばを耳にした際、どことなく陰のあるイメージがありました。恐らく、日常で携わらない人々にとっては同様のイメージがあると思われまます。その為、より一層開かれた情報公開（伝え方もありますが）が必要と思われまます。</p>
40	<p>「放射性廃棄物の処理・処分」について、私は高校の教員をしていた頃、電気工事士要請過程の生徒を引率して東北電力女川原子力発電所を見学しました。原子力の安全安心を説明していただき、理解しています。しかし、原子力発電所のゴミである放射性廃棄物はやっかいな物であるのは充分理解しています。安全に注意して地下に埋蔵するなり、対策を考えればよいと思います。</p>
41	<ul style="list-style-type: none"> ① 放射能レベルによつての地中処分は、鉱山廃坑となっている地中を活用してはどうか。 ② 国家レベルのエネルギー問題にもかかわらず、国の指導者の熱意が感じられない（担当レベルに任せっ放しといった感じ）。エネルギー問題、食糧問題全て次世代任せと思われる。
42	<p>原発は、現在及び将来共追い風。且つ必要。PRが完全に不足。</p>
43	<p>原子力発電の必要性は充分理解できるが、放射性物質の処理は、青森県六ヶ所村にのみ負担させてよいのか甚だ疑問に思ひます。放射性物質の「被害」は見えにくい、その影響について正確に情報公開し、国民への安心を与えて欲しい。</p>
44	<p>放射性廃棄物については、科学的知見を十分に活用し、長期にわたつて安全に処理・処分を行つていくことが非常に重要である。</p>